



# 2020年3月期 第3四半期決算短信〔IFRS〕(連結)

2020年1月31日

上場会社名 **小野薬品工業株式会社** 上場取引所 東  
 コード番号 4528 URL <https://www.ono.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 相良 暁  
 問合せ先責任者 (役職名) 常務執行役員広報部長 (氏名) 谷 幸雄 (TEL) (06) 6263-5670  
 四半期報告書提出予定日 2020年2月7日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・証券アナリスト向け)

(百万円未満四捨五入)

## 1. 2020年3月期第3四半期の連結業績 (2019年4月1日～2019年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上収益		営業利益		税引前利益		四半期利益		親会社の所有者に 帰属する四半期利益		四半期包括利益 合計額	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第3四半期	225,299	0.9	66,045	26.7	68,687	24.4	51,982	20.3	51,827	20.2	62,652	67.4
2019年3月期第3四半期	223,197	11.3	52,146	△0.1	55,234	△0.2	43,212	4.0	43,133	4.1	37,419	△43.1
	基本的1株当たり 四半期利益		希薄化後1株当たり 四半期利益									
	円 銭		円 銭									
2020年3月期第3四半期	102.54		102.53									
2019年3月期第3四半期	83.90		83.89									

(2) 連結財政状態

	資産合計	資本合計	親会社の所有者に 帰属する持分	親会社所有者 帰属持分比率
	百万円	百万円	百万円	%
2020年3月期第3四半期	659,217	573,022	567,495	86.1
2019年3月期	655,056	562,736	557,350	85.1

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	22.50	—	22.50	45.00
2020年3月期	—	22.50	—	—	—
2020年3月期(予想)	—	—	—	22.50	45.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2020年3月期の連結業績予想 (2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上収益		営業利益		税引前利益		当期利益		親会社の所有者に 帰属する当期利益		基本的1株当たり 当期利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	290,000	0.5	71,000	14.5	73,000	12.1	55,100	6.6	55,000	6.7	108.82

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更

- ① IFRSにより要求される会計方針の変更 : 有  
② ①以外の会計方針の変更 : 無  
③ 会計上の見積りの変更 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)  
② 期末自己株式数  
③ 期中平均株式数(四半期累計)

2020年3月期3Q	528,341,400株	2019年3月期	543,341,400株
2020年3月期3Q	29,221,845株	2019年3月期	29,220,860株
2020年3月期3Q	505,432,005株	2019年3月期3Q	514,121,174株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

●本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、上記業績予想に関する事項は、添付資料4ページ「(4) 今後の見通し」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当第3四半期の経営成績の概況 .....	2
(2) 当第3四半期の財政状態の概況 .....	3
(3) 当第3四半期のキャッシュ・フローの概況 .....	3
(4) 今後の見通し .....	4
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方 .....	4
3. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 要約四半期連結財政状態計算書 .....	5
(2) 要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書 .....	7
(3) 要約四半期連結持分変動計算書 .....	9
(4) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	10
(5) 要約四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	11
(会計方針の変更) .....	11
(セグメント情報) .....	12
(重要な後発事象) .....	12
(継続企業の前提に関する注記) .....	12
4. 補足情報 .....	13
(1) 主な製品の売上収益と予想 .....	13
(2) 売上収益の内訳 .....	13
(3) 地域別の売上収益に関する情報 .....	13
(4) 開発品（がん領域）の主な進捗状況 .....	14
(5) 開発品（がん領域以外）の主な進捗状況 .....	21

## 1. 経営成績等の概況

## (1) 当第3四半期の経営成績の概況

(単位：百万円)

	2019年3月期 第3四半期連結累計期間	2020年3月期 第3四半期連結累計期間	対前年同期 増減額	対前年同期 増減率
売上収益	223,197	225,299	2,102	0.9%
営業利益	52,146	66,045	13,899	26.7%
税引前四半期利益	55,234	68,687	13,453	24.4%
四半期利益 (親会社の所有者帰属)	43,133	51,827	8,694	20.2%

## [売上収益]

売上収益は、前年同期比21億円(0.9%)増加の2,253億円となりました。

- ・抗悪性腫瘍剤「オブジーボ点滴静注」は、腎細胞がん等での使用が拡大した一方で、一昨年11月の薬価見直しの影響や競合他社製品との競争激化により、前年同期比34億円(4.7%)減少の680億円となりました。
- ・その他の主要新製品では、2型糖尿病治療剤「グラクティブ錠」は205億円(前年同期比3.0%減)、関節リウマチ治療剤「オレンシア皮下注」は152億円(同13.1%増)、糖尿病治療剤「フォシーガ錠」は138億円(同24.5%増)、抗悪性腫瘍剤投与に伴う悪心・嘔吐治療剤「イメンドカプセル」、「プロイメンド点滴静注用」は合わせて89億円(同7.9%増)、アルツハイマー型認知症治療剤「リバスタッチパッチ」は67億円(同4.0%減)、血液透析下の二次性副甲状腺機能亢進症治療剤「パーサビブ静注透析用」は55億円(同23.7%増)、多発性骨髄腫治療剤「カイプロリス点滴静注用」は46億円(同18.0%増)となりました。
- ・長期収載品は、後発品使用促進策の影響を受け、末梢循環障害改善剤「オパルモン錠」は67億円(前年同期比19.0%減)、骨粗鬆症治療剤「リカルボン錠」は39億円(同36.7%減)となりました。
- ・ロイヤルティ・その他は、ブリストル・マイヤーズ スクイブ社およびメルク社からのロイヤルティ収入などが増加したことにより、前年同期比48億円(8.1%)増加の642億円となりました。

## [営業利益]

営業利益は、前年同期比139億円(26.7%)増加の660億円となりました。

- ・売上原価は、前年同期に発生したオブジーボ原薬の安定供給を受けるための一時的な負担金が当期にはなかったことなどにより、前年同期比50億円(7.6%)減少の616億円となりました。
- ・研究開発費は、治験費用や創薬提携に係るライセンス料などが減少したことにより、前年同期比58億円(11.3%)減少の454億円となりました。
- ・販売費及び一般管理費(研究開発費を除く)は、営業経費が減少したことなどにより、前年同期比12億円(2.4%)減少の509億円となりました。

## [四半期利益](親会社所有者帰属)

親会社の所有者に帰属する四半期利益は、税引前四半期利益の増加に伴い、前年同期比87億円(20.2%)増加の518億円となりました。

## (2) 当第3四半期の財政状態の概況

(単位：百万円)

	2019年3月期 連結会計年度末	2020年3月期 第3四半期連結会計期間末	対前連結会計年度末 増減額
資産合計	655,056	659,217	4,161
親会社の所有者に帰属する持分	557,350	567,495	10,145
親会社所有者帰属持分比率	85.1%	86.1%	
1株当たり親会社所有者帰属持分	1,084.08円	1,136.99円	

資産合計は、前期末に比べ42億円増加の6,592億円となりました。

流動資産は、その他の金融資産や現金及び現金同等物の増加などから308億円増加の2,254億円となりました。

非流動資産は、IFRS第16号適用に伴い使用権資産を計上したことによる有形固定資産の増加などがあったものの、その他の金融資産の減少などから267億円減少の4,338億円となりました。

負債は、IFRS第16号適用に伴うリース負債の増加や引当金の増加などがあった一方で、仕入債務及びその他の債務や未払法人所得税の減少などから61億円減少の862億円となりました。

親会社の所有者に帰属する持分は、自己株式の取得があったものの、利益剰余金やその他の資本の構成要素の増加などから101億円増加の5,675億円となりました。

## (3) 当第3四半期のキャッシュ・フローの概況

(単位：百万円)

	2019年3月期 第3四半期連結累計期間	2020年3月期 第3四半期連結累計期間	対前年同期 増減額
現金及び現金同等物の期首残高	65,273	59,981	
営業活動によるキャッシュ・フロー	43,005	50,178	7,173
投資活動によるキャッシュ・フロー	△7,106	10,349	17,454
財務活動によるキャッシュ・フロー	△21,418	△53,391	△31,973
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	14,481	7,136	
現金及び現金同等物に係る為替変動による影響額	△34	△2	
現金及び現金同等物の四半期末残高	79,720	67,116	

当第3四半期の現金及び現金同等物の増減額は、71億円の増加となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、法人所得税等の支払額284億円などがあった一方で、税引前四半期利益687億円や減価償却費及び償却費104億円などがあった結果、502億円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、定期預金の預入による支出106億円、無形資産の取得による支出127億円、有形固定資産の取得による支出62億円などがあったものの、定期預金の払戻による収入256億円や投資の売却及び償還による収入138億円などがあった結果、103億円の収入となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、自己株式の取得による支出296億円や配当金の支払額221億円などがあった結果、534億円の支出となりました。

## (4) 今後の見通し

2019年5月9日に公表しました2020年3月期通期の連結業績予想を、下記のとおり修正します。

## 2020年3月期通期連結業績予想数値の修正

(2019年4月1日～2020年3月31日)

(単位：百万円)

	売上収益	営業利益	税引前利益	当期利益	親会社の所有者に帰属する当期利益	基本的1株当たり当期利益
前回公表予想(A)	290,000	67,000	70,000	53,100	53,000	103.09円
今回修正予想(B)	290,000	71,000	73,000	55,100	55,000	108.82円
増減額(B-A)	—	4,000	3,000	2,000	2,000	
増減率(%)	—	6.0	4.3	3.8	3.8	
(ご参考)前期実績 (2019年3月期)	288,634	62,010	65,141	51,679	51,539	100.25円

売上収益は、前回公表予想から変更はありません。

費用面では、売上原価は前回公表予想から変更はありませんが、研究開発費を前回公表予想に比べ20億円減少の700億円、販売費及び一般管理費を前回公表予想に比べ20億円減少の700億円にそれぞれ修正しました。

以上の結果、当期の営業利益は710億円（前回公表予想比40億円増）、税引前利益は730億円（同30億円増）、当期利益は551億円（同20億円増）、親会社の所有者に帰属する当期利益は550億円（同20億円増）を予想しています。

(注) 上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成しており、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

## 2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループは、国際的なスタンダードに基づく財務情報の開示により比較可能性を向上させ、株主、投資家や取引先など様々なステークホルダーの皆さまの利便性をはかることを目的として、2014年3月期から国際会計基準(IFRS)を適用しております。

## 3. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 要約四半期連結財政状態計算書

	(単位：百万円)	
	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
資産		
流動資産		
現金及び現金同等物	59,981	67,116
売上債権及びその他の債権	76,285	82,116
有価証券	687	631
その他の金融資産	10,800	30,828
棚卸資産	32,821	31,972
その他の流動資産	14,042	12,769
流動資産合計	194,617	225,431
非流動資産		
有形固定資産	108,870	114,786
無形資産	63,059	67,691
投資有価証券	171,476	172,539
持分法で会計処理されている投資	113	121
その他の金融資産	91,672	56,682
繰延税金資産	21,079	18,622
その他の非流動資産	4,171	3,346
非流動資産合計	460,439	433,787
資産合計	655,056	659,217

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
負債及び資本		
流動負債		
仕入債務及びその他の債務	36,833	29,907
借入金	435	—
リース負債	—	2,279
その他の金融負債	515	2,993
未払法人所得税	15,980	6,441
引当金	17,206	20,721
その他の流動負債	12,181	10,112
流動負債合計	83,150	72,452
非流動負債		
借入金	1,765	—
リース負債	—	6,616
その他の金融負債	5	6
退職給付に係る負債	5,515	5,232
繰延税金負債	1,053	1,064
その他の非流動負債	832	824
非流動負債合計	9,171	13,743
負債合計	92,321	86,195
資本		
資本金	17,358	17,358
資本剰余金	17,202	17,222
自己株式	△38,151	△44,736
その他の資本の構成要素	61,852	66,636
利益剰余金	499,088	511,015
親会社の所有者に帰属する持分	557,350	567,495
非支配持分	5,386	5,527
資本合計	562,736	573,022
負債及び資本合計	655,056	659,217



## (2) 要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書

## 要約四半期連結損益計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
売上収益	223,197	225,299
売上原価	△66,592	△61,555
売上総利益	156,605	163,745
販売費及び一般管理費	△52,167	△50,938
研究開発費	△51,172	△45,371
その他の収益	583	584
その他の費用	△1,703	△1,976
営業利益	52,146	66,045
金融収益	3,225	2,999
金融費用	△141	△362
持分法による投資損益	5	5
税引前四半期利益	55,234	68,687
法人所得税	△12,022	△16,705
四半期利益	43,212	51,982
四半期利益の帰属：		
親会社の所有者	43,133	51,827
非支配持分	79	155
四半期利益	43,212	51,982
1株当たり四半期利益：		
基本的1株当たり四半期利益(円)	83.90	102.54
希薄化後1株当たり四半期利益(円)	83.89	102.53

## 要約四半期連結包括利益計算書

	(単位：百万円)	
	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
四半期利益	43,212	51,982
その他の包括利益：		
純損益に振り替えられることのない項目：		
その他の包括利益を通じて測定する 金融資産の公正価値の純変動	△5,618	10,288
確定給付制度の再測定	△208	396
持分法適用会社のその他の包括利益を を通じて測定する金融資産の公正価値の 純変動に対する持分	△8	3
純損益に振り替えられることのない 項目合計	△5,835	10,687
純損益にその後に振り替えられる 可能性のある項目：		
在外営業活動体の換算差額	51	△36
キャッシュ・フロー・ヘッジの 公正価値の純変動	△10	19
純損益にその後に振り替えられる 可能性のある項目合計	42	△17
その他の包括利益合計	△5,793	10,670
四半期包括利益合計	37,419	62,652
四半期包括利益合計の帰属：		
親会社の所有者	37,330	62,508
非支配持分	89	145
四半期包括利益合計	37,419	62,652

(3) 要約四半期連結持分変動計算書

前第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

(単位:百万円)

	親会社の所有者に帰属する持分							資本合計
	資本金	資本 剰余金	自己株式	その他の 資本の 構成要素	利益 剰余金	親会社の 所有者に 帰属する 持分	非支配 持分	
2018年4月1日残高	17,358	17,175	△38,148	68,021	459,985	524,390	5,228	529,619
会計方針の変更					4,127	4,127		4,127
修正再表示後の残高	17,358	17,175	△38,148	68,021	464,112	528,517	5,228	533,746
四半期利益					43,133	43,133	79	43,212
その他の包括利益				△5,803		△5,803	10	△5,793
四半期包括利益合計	—	—	—	△5,803	43,133	37,330	89	37,419
自己株式の取得			△2			△2		△2
剰余金の配当					△21,850	△21,850	△5	△21,856
株式報酬取引		20				20		20
その他の資本の構成要素 から利益剰余金への振替				△863	863	—		—
所有者との取引額等合計	—	20	△2	△863	△20,988	△21,832	△5	△21,838
2018年12月31日残高	17,358	17,195	△38,150	61,355	486,257	544,015	5,312	549,327

当第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

(単位:百万円)

	親会社の所有者に帰属する持分							資本合計
	資本金	資本 剰余金	自己株式	その他の 資本の 構成要素	利益 剰余金	親会社の 所有者に 帰属する 持分	非支配 持分	
2019年4月1日残高	17,358	17,202	△38,151	61,852	499,088	557,350	5,386	562,736
四半期利益					51,827	51,827	155	51,982
その他の包括利益				10,680		10,680	△10	10,670
四半期包括利益合計	—	—	—	10,680	51,827	62,508	145	62,652
自己株式の取得			△29,585			△29,585		△29,585
自己株式の消却			22,999		△22,999	—		—
剰余金の配当					△22,798	△22,798	△3	△22,801
株式報酬取引		20				20		20
その他の資本の構成要素 から利益剰余金への振替				△5,896	5,896	—		—
所有者との取引額等合計	—	20	△6,586	△5,896	△39,901	△52,363	△3	△52,366
2019年12月31日残高	17,358	17,222	△44,736	66,636	511,015	567,495	5,527	573,022

## (4) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書

	(単位：百万円)	
	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期利益	55,234	68,687
減価償却費及び償却費	7,773	10,426
減損損失	24	85
受取利息及び受取配当金	△3,054	△2,881
支払利息	14	57
棚卸資産の増減額(△は増加)	△2,486	799
売上債権及びその他の債権の増減額(△は増加)	△8,746	△5,944
仕入債務及びその他の債務の増減額(△は減少)	3,126	△588
引当金の増減額(△は減少)	4,678	3,515
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	276	289
その他	1,584	1,294
小計	58,424	75,739
利息の受取額	51	54
配当金の受取額	3,002	2,819
利息の支払額	△14	△57
法人所得税等の支払額	△18,458	△28,377
営業活動によるキャッシュ・フロー	43,005	50,178
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△15,372	△6,248
無形資産の取得による支出	△2,410	△12,677
投資の売却及び償還による収入	10,844	13,838
定期預金の預入による支出	△10,600	△10,600
定期預金の払戻による収入	10,600	25,600
その他	△168	437
投資活動によるキャッシュ・フロー	△7,106	10,349
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	△21,092	△22,066
非支配持分への配当金の支払額	△5	△3
長期借入金の返済による支出	△236	-
リース負債の返済による支出	-	△1,739
短期借入金の純増減額	△84	-
自己株式の取得による支出	△1	△29,584
財務活動によるキャッシュ・フロー	△21,418	△53,391
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	14,481	7,136
現金及び現金同等物の期首残高	65,273	59,981
現金及び現金同等物に係る 為替変動による影響額	△34	△2
現金及び現金同等物の四半期末残高	79,720	67,116

## (5) 要約四半期連結財務諸表に関する注記事項

## (会計方針の変更)

当社グループは、第1四半期連結会計期間よりIFRS第16号「リース」(2016年1月公表)(以下「IFRS第16号」)を適用しております。

この基準の適用により、過去にIAS第17号「リース」(以下「IAS第17号」)を適用してオペレーティング・リースに分類したリースについて、IFRS第16号の適用開始日(2019年4月1日)に、使用権資産およびリース負債を認識しております。

また、当第3四半期連結累計期間の要約四半期連結損益計算書においては、従前の会計基準を適用した場合に発生時に費用処理していたオペレーティング・リース料が、使用権資産に係る減価償却費およびリース負債に係る利息費用として計上され、要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書においては、営業活動によるキャッシュ・フローの減額項目から財務活動によるキャッシュ・フローの減額項目に計上区分が変更されております。

IFRS第16号の適用に伴い、当社グループは、借手としてのリース取引について、リース開始日に、使用権資産を取得原価で、リース負債を未払リース料総額の現在価値として測定しております。

使用権資産は、耐用年数とリース期間のいずれか短い年数にわたって、定額法で減価償却を行っております。

リース料は、利息法に基づき金融費用とリース負債の返済額に配分し、金融費用は要約四半期連結損益計算書において認識しております。

ただし、無形資産に係るリース、原資産が少額であるリースおよびリース期間が12ヵ月以内の短期リースについては、使用権資産およびリース負債を認識しておりません。少額リースおよび短期リースに係るリース料は、リース料総額をリース期間にわたって、定額法または他の規則的な基礎のいずれかにより費用として認識しております。

当社グループでは、経過措置に従ってIFRS第16号を遡及適用し、適用開始の累積的影響を当第3四半期連結累計期間の利益剰余金期首残高の修正として認識する方法を採用しております。IFRS第16号への移行に際し、契約にリースが含まれているか否かについては、IFRS第16号C3項の実務上の便法を選択し、IAS第17号およびIFRIC第4号「契約にリースが含まれているか否かの判断」のもとでの判断を引き継いでおります。

リース負債は、適用開始日時点で支払われていないリース料を適用開始日現在の借手の追加借入利率を用いて割り引いた現在価値で測定しております。適用開始日現在の連結財政状態計算書に認識されているリース負債に適用している借手の追加借入利率の加重平均は、0.9%であります。使用権資産は、リース負債の測定額に前払リース料または未払リース料を調整した額で測定しております。

IAS第17号を適用してファイナンス・リースに分類したリースについての使用権資産とリース負債については、前連結会計年度末時点におけるリース資産とリース負債の帳簿価額で測定しております。

この結果、従前の会計基準を適用した場合と比較して、当第3四半期連結累計期間の期首において、有形固定資産およびリース負債がそれぞれ6,245百万円増加しております。適用開始日現在の使用権資産は、リース負債の測定額に前払リース料または未払リース料を調整した額で測定しているため、期首利益剰余金への影響はありません。

前連結会計年度末現在でIAS第17号を適用して開示したオペレーティング・リース契約と要約四半期連結財政状態計算書に認識した適用開始日のリース負債の調整表は、以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	金額
2019年3月31日現在で開示したオペレーティング・リース契約	499
2019年4月1日現在の追加借入利率で割り引いたオペレーティング・リース契約	499
2019年3月31日現在で開示したファイナンス・リース契約	2,200
解約可能オペレーティング・リース契約	5,757
その他	△11
2019年4月1日現在のリース負債	8,445

なお、当社グループは、IFRS第16号を適用するにあたり、以下に示すIFRS第16号C10項の実務上の便法を使用しております。

- ・特性が合理的に類似したリースのポートフォリオに単一の割引率を適用しております。
- ・適用開始日から12ヵ月以内にリース期間が終了するリースについて、短期リースと同じ方法で会計処理しております。
- ・当初直接コストを適用開始日現在の使用権資産の測定から除外しております。
- ・延長または解約オプションが含まれている契約について、リース期間を算定する際に、事後的判断を使用しております。

**(セグメント情報)**

当社グループの事業は医薬品事業の単一セグメントであるため、セグメントごとの記載を省略しております。

**(重要な後発事象)**

該当事項はありません。

**(継続企業の前提に関する注記)**

該当事項はありません。

## 4. 補足情報

## (1) 主な製品の売上収益と予想

(単位：億円)

製品名	2020年3月期 第3四半期累計実績						2020年3月期 通期予想		
	累 計 実 績				前年同期比		通期 予想	前期比	
	4～6月	7～9月	10～12月		増減額	増減率		増減額	増減率
オブジーボ点滴静注	223	245	212	680	△34	△4.7%	850	△56	△6.2%
グラクティブ錠	69	63	73	205	△6	△3.0%	265	△4	△1.5%
オレンシア皮下注	49	51	52	152	18	13.1%	190	16	9.0%
フォシーガ錠	44	43	51	138	27	24.5%	165	20	13.8%
イメンド/プロイメンド	29	30	30	89	6	7.9%	115	9	8.4%
リバスタッチパッチ	23	21	24	67	△3	△4.0%	95	6	6.8%
オパールモン錠	23	21	23	67	△16	△19.0%	90	△14	△13.1%
パーサビブ静注透析用	17	18	20	55	10	23.7%	70	13	22.4%
カiproリス点滴静注用	14	15	17	46	7	18.0%	55	6	11.8%
リカルボン錠	14	12	13	39	△22	△36.7%	50	△23	△31.9%
オノアクト点滴静注用	13	11	16	40	4	10.2%	45	△1	△1.8%
オノンカプセル	9	7	9	25	△6	△18.6%	35	△9	△19.9%
ステーブラ錠	9	7	8	25	△5	△16.0%	35	△2	△5.3%
オノンドライシロップ	6	4	7	17	△3	△17.0%	20	△7	△25.9%

(注) 1. 仕切価格(出荷価格)ベースでの売上収益を開示しております。

2. 当連結会計年度の予想売上収益については、現在承認されている適応症のみを対象としています。

## (2) 売上収益の内訳

(単位：億円)

	2019年3月期 第3四半期連結累計期間	2020年3月期 第3四半期連結累計期間
製品商品	1,638	1,611
ロイヤルティ・その他	594	642
合計	2,232	2,253

(注) 「ロイヤルティ・その他」の中には、ブリストル・マイヤーズ スクイブ社からの「オブジーボ点滴静注」に係るロイヤルティ収入が、前第3四半期連結累計期間には433億円、当第3四半期連結累計期間には460億円、メルク社からの「Keytruda®」に係るロイヤルティ収入が、前第3四半期連結累計期間には90億円、当第3四半期連結累計期間には138億円、それぞれ含まれております。

## (3) 地域別の売上収益に関する情報

(単位：億円)

	2019年3月期 第3四半期連結累計期間	2020年3月期 第3四半期連結累計期間
日本	1,630	1,586
米州	531	602
アジア	56	62
欧州	14	3
合計	2,232	2,253

(注) 売上収益は顧客の所在地を基礎とし、国または地域に分類しております。

(4) 開発品(がん領域)の主な進捗状況

2020年1月24日現在

1. 日本の開発品状況

<承認取得開発品>

製品名/開発コード /一般名	区分	予定効能/薬理作用	剤型	自社*/導入
カイプロリス点滴静注用 <sup>※1</sup> /カルフィルゾミブ	用法・用量 変更	多発性骨髄腫 /プロテアソーム阻害作用	注射	導入 (アムジェン社)

2020年3月期第2四半期決算発表表からの変更点

※1: 多発性骨髄腫治療剤「カイプロリス」について、「再発又は難治性の多発性骨髄腫」を効能・効果とする週1回投与の用法及び用量を追加する承認を取得しました。

<申請中開発品>

製品名/開発コード /一般名	区分	予定効能/薬理作用	剤型	自社*/導入
ONO-7643 /アナモレリン	新有効成分	がん悪液質/グレリン様作用	錠	導入 (ヘルシン社)
オブジーボ点滴静注 /ニボルマブ	効能追加	結腸・直腸がん (MSI-H)	注射	自社 (プリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	食道がん	注射	自社 (プリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
ONO-4059 /チラブルチニブ	新有効成分	中枢神経系原発リンパ腫 /Bruton's tyrosine kinase (Btk) 阻害作用	錠	自社
	新有効成分	原発性マクログロブリン血症、 リンパ形質細胞リンパ腫 <sup>※2</sup> /同上	錠	自社
ヤーボイ点滴静注液* /イピリムマブ	効能追加	結腸・直腸がん (MSI-H) <sup>※3</sup>	注射	導入 (プリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	非小細胞肺癌 <sup>※4</sup>	注射	導入 (プリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)

★: 「オブジーボ」との併用試験

2020年3月期第2四半期決算発表表からの変更点

※2: ブルトン型チロシンキナーゼ阻害薬「ONO-4059/チラブルチニブ」は、「原発性マクログロブリン血症及びリンパ形質細胞リンパ腫」を効能・効果とした承認申請を行いました。

※3: 「オブジーボ」と「ヤーボイ」との併用療法について、「がん化学療法後に増悪した治癒切除不能な進行・再発の高頻度マイクロサテライト不安定性 (MSI-H) を有する結腸・直腸がん」を効能・効果とした承認申請を行いました。

※4: 「オブジーボ」と「ヤーボイ」との併用療法について、「切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌」を効能・効果とした承認申請を行いました。

\*): 共同研究により創出された化合物を含む

なお、がん領域の薬剤において、同じ予定効能(がん腫)の場合は、最も進んでいるフェーズ(臨床ステージ)を記載しております。



<臨床試験中開発品>

製品名／開発コード ／一般名	区分	予定効能／薬理作用	剤型	フェーズ	自社 <sup>*</sup> ／導入
オプジーボ点滴静注 /ニボルマブ	効能追加	食道胃接合部がん及び食道がん	注射	Ⅲ	自社 (ブリistol・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	小細胞肺がん	注射	Ⅲ	自社 (ブリistol・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	肝細胞がん	注射	Ⅲ	自社 (ブリistol・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	膠芽腫	注射	Ⅲ	自社 (ブリistol・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	尿路上皮がん	注射	Ⅲ	自社 (ブリistol・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	卵巣がん	注射	Ⅲ	自社 (ブリistol・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	膀胱がん	注射	Ⅲ	自社 (ブリistol・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
ヤーボイ点滴静注液 <sup>*</sup> /イピリムマブ	効能追加	小細胞肺がん	注射	Ⅲ	導入 (ブリistol・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	頭頸部がん	注射	Ⅲ	導入 (ブリistol・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	胃がん	注射	Ⅲ	導入 (ブリistol・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	悪性胸膜中皮腫	注射	Ⅲ	導入 (ブリistol・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	食道がん	注射	Ⅲ	導入 (ブリistol・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	尿路上皮がん	注射	Ⅲ	導入 (ブリistol・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	肝細胞がん	注射	Ⅲ	導入 (ブリistol・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
ビラフトビカプセル /エンコラフェニブ	新有効成分	結腸・直腸がん /BRAF阻害作用	カプセル	Ⅲ	導入 (ファイザー社)
メクトビ錠 /ビニメチニブ	新有効成分	結腸・直腸がん /MEK阻害作用	錠	Ⅲ	導入 (ファイザー社)
ONO-7701 <sup>*</sup> (BMS-986205) /Linrodostat	新有効成分	膀胱がん/ID01阻害作用	錠	Ⅲ	導入 (ブリistol・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)

製品名／開発コード ／一般名	区分	予定効能／薬理作用	剤型	フェーズ	自社 <sup>*</sup> ／導入
ONO-4687 <sup>*</sup> (BMS-986227) /Cabiralizumab	新有効成分	膵がん／抗CSF-1R抗体	注射	Ⅱ	導入 (ブリistol・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
オブジーボ点滴静注 /ニボルマブ	効能追加	固形がん(子宮頸がん、子宮体がん及び軟部肉腫)	注射	Ⅱ	自社 (ブリistol・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	中枢神経系原発リンパ腫／精巣原発リンパ腫	注射	Ⅱ	自社 (ブリistol・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	膵がん	注射	Ⅱ	自社 (ブリistol・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	胆道がん <sup>※5</sup>	注射	Ⅱ	自社 (ブリistol・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	ウイルス陽性・陰性固形がん	注射	I/Ⅱ	自社 (ブリistol・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
ヤーボイ点滴静注液 <sup>*</sup> /イピリムマブ	効能追加	ウイルス陽性・陰性固形がん	注射	I/Ⅱ	導入 (ブリistol・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
ONO-4686 <sup>*</sup> (BMS-986207)	新有効成分	固形がん／抗TIGIT抗体	注射	I/Ⅱ	導入 (ブリistol・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
ONO-4482 <sup>*</sup> (BMS-986016)/Relatlimab	新有効成分	悪性黒色腫／抗LAG-3抗体	注射	I/Ⅱ	導入 (ブリistol・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
ONO-7807 <sup>*</sup> (BMS-986258)	新有効成分	固形がん／抗TIM-3抗体	注射	I/Ⅱ	導入 (ブリistol・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
ONO-4483 <sup>*</sup> (BMS-986015)/Lirilumab	新有効成分	固形がん／抗KIR抗体	注射	I	導入 (ブリistol・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
ONO-4578 <sup>*</sup>	新有効成分	固形がん ／プロスタグランジン受容体 (EP4)拮抗作用	錠	I	自社
ONO-7705 /Selinexor	新有効成分	多発性骨髄腫及び非ホジキンリンパ腫／XP01阻害作用	錠	I	導入 (カリオフアーム社)
ONO-7475 <sup>*</sup>	新有効成分	固形がん／Ax1/Mer阻害作用	錠	I	自社
ONO-7911 <sup>*</sup> (BMS-986321) /Bempegaldesleukin	新有効成分	固形がん ／PEG化インターロイキン-2	注射	I	導入 (ブリistol・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)

★：「オブジーボ」との併用試験

2020年3月期第2四半期決算発表からの変更点

※5：「オブジーボ」について、「胆道がん」を対象としたフェーズⅡ試験を開始しました。

＊）：共同研究により創出された化合物を含む

なお、がん領域の薬剤において、同じ予定効能(がん腫)の場合は、最も進んでいるフェーズ(臨床ステージ)を記載しております。

## 2. 韓国、台湾の開発品状況

## ＜臨床試験中開発品＞

製品名／開発コード ／一般名	区分	予定効能／薬理作用	剤型	フェーズ	地域	自社 <sup>*</sup> ／導入
オペジーボ点滴静注 /ニボルマブ	効能追加	食道がん	注射	Ⅲ	韓国、台湾	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	食道胃接合部がん及び食道がん	注射	Ⅲ	韓国、台湾	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	小細胞肺癌	注射	Ⅲ	韓国、台湾	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	肝細胞がん	注射	Ⅲ	韓国	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	膀胱がん	注射	Ⅲ	韓国、台湾	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
ヤーボイ点滴静注液 <sup>*</sup> /イピリムマブ	効能追加	非小細胞肺癌	注射	Ⅲ	韓国、台湾	導入 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	小細胞肺癌	注射	Ⅲ	韓国、台湾	導入 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	頭頸部がん	注射	Ⅲ	韓国、台湾	導入 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	胃がん	注射	Ⅲ	韓国、台湾	導入 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	食道がん	注射	Ⅲ	韓国、台湾	導入 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	尿路上皮がん	注射	Ⅲ	韓国、台湾	導入 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	肝細胞がん	注射	Ⅲ	韓国、台湾	導入 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
ONO-7702 /エンコラフェニブ	新有効成分	結腸・直腸がん /BRAF阻害作用	カプセル	Ⅲ	韓国	導入 (ファイザー社)
	新有効成分	悪性黒色腫 /同上	カプセル	Ⅲ	韓国	導入 (ファイザー社)
ONO-7703 /ビニメチニブ	新有効成分	結腸・直腸がん /MEK阻害作用	錠	Ⅲ	韓国	導入 (ファイザー社)
	新有効成分	悪性黒色腫 /同上	錠	Ⅲ	韓国	導入 (ファイザー社)
ONO-7701 <sup>*</sup> (BMS-986205) /Linrodostat	新有効成分	膀胱がん /ID01阻害作用	錠	Ⅲ	韓国、台湾	導入 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
ONO-7912 <sup>**6</sup> (CPI-613) /Devimistat	新有効成分	膵がん /がん代謝阻害	注射	Ⅲ	韓国	導入 (ラファエル社)
	新有効成分	急性骨髄性白血病 /同上	注射	Ⅲ	韓国	導入 (ラファエル社)
オペジーボ点滴静注 /ニボルマブ	効能追加	膵がん	注射	Ⅱ	韓国、台湾	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
ONO-4687 <sup>*</sup> (BMS-986227) /Cabiralizumab	新有効成分	膵がん/抗CSF-1R抗体	注射	Ⅱ	韓国、台湾	導入 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)

製品名／開発コード ／一般名	区分	予定効能／薬理作用	剤型	フェーズ	地域	自社*)／導入
オブジーボ点滴静注 /ニボルマブ	効能追加	ウイルス陽性・陰性固形 がん	注射	I / II	韓国、台湾	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
ヤーボイ点滴静注液* /イピリムマブ	効能追加	ウイルス陽性・陰性固形 がん	注射	I / II	韓国、台湾	導入 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)

★：「オブジーボ」との併用試験

2020年3月期第2四半期決算発表からの変更点

※6：がん代謝阻害薬「ONO-7912 (CPI-613) /Devimistat」について、韓国で「膵がん」及び「急性骨髄性白血病」を対象としたフェーズⅢ試験を開始しました。

**\*)：共同研究により創出された化合物を含む**

なお、がん領域の薬剤において、同じ予定効能（がん腫）の場合は、最も進んでいるフェーズ（臨床ステージ）を記載しております。

3. 欧米の開発品状況

<臨床試験中開発品>

製品名／開発コード ／一般名	区分	予定効能／薬理作用	剤型	フェーズ	地域	自社 <sup>*</sup> ／導入
オブジーボ点滴静注 /ニボルマブ	効能追加	膠芽腫	注射	Ⅲ	欧米	自社 (ブリistol・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	小細胞肺癌	注射	Ⅲ	欧州	自社 (ブリistol・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	肝細胞がん	注射	Ⅲ	欧州	自社 (ブリistol・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	食道がん	注射	Ⅲ	欧米	自社 (ブリistol・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	多発性骨髄腫	注射	Ⅲ	欧米	自社 (ブリistol・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	食道胃接合部がん及び食道がん	注射	Ⅲ	欧米	自社 (ブリistol・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	胃がん	注射	Ⅲ	欧米	自社 (ブリistol・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	悪性胸膜中皮腫	注射	Ⅲ	欧米	自社 (ブリistol・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	卵巣がん	注射	Ⅲ	欧米	自社 (ブリistol・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	膀胱がん	注射	Ⅲ	欧米	自社 (ブリistol・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	結腸・直腸がん	注射	Ⅱ/Ⅲ	欧州	自社 (ブリistol・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	びまん性大細胞型B細胞リンパ腫	注射	Ⅱ	欧米	自社 (ブリistol・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	濾胞性リンパ腫	注射	Ⅱ	欧米	自社 (ブリistol・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	中枢神経系原発リンパ腫／精巣 原発リンパ腫	注射	Ⅱ	欧米	自社 (ブリistol・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	前立腺がん	注射	Ⅱ	欧米	自社 (ブリistol・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
効能追加	膵がん	注射	Ⅱ	欧米	自社 (ブリistol・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)	

製品名／開発コード ／一般名	区分	予定効能／薬理作用	剤型	フェーズ	地域	自社 <sup>*</sup> ／導入
ONO-4059 /チラブルチニブ	新有効成分	B細胞リンパ腫 /Bruton's tyrosine kinase (Btk) 阻害作用	錠	II	欧州	自社 (ギリアド・サイエンシ ズ社に導出)
ONO-4578 <sup>*</sup>	新有効成分	固形がん /プロスタグランدين受容体 (EP4) 拮抗作用	錠	I/II	欧米	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
オブジーボ点滴静注 /ニボルマブ	効能追加	固形がん (トリプルネガティブ 乳がん、胃がん、膵がん、小細 胞肺癌、尿路上皮がん、卵巣 がん)	注射	I/II	欧米	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	ウイルス陽性・陰性固形がん	注射	I/II	欧米	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	血液がん (T細胞リンパ腫、多 発性骨髄腫、慢性白血病、他)	注射	I	欧米	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	慢性骨髄性白血病	注射	I	欧米	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
ONO-4059 /チラブルチニブ	新有効成分	B細胞リンパ腫 /Bruton's tyrosine kinase (Btk) 阻害作用	錠	I	米国	自社 (ギリアド・サイエンシ ズ社に導出)
ONO-7475	新有効成分	急性白血病/Axl/Mer阻害作用	錠	I	米国	自社

★：「オブジーボ」との併用試験

\*): 共同研究により創出された化合物を含む

なお、がん領域の薬剤において、同じ予定効能（がん腫）の場合は、最も進んでいるフェーズ（臨床ステージ）を記載しております。

(5) 開発品（がん領域以外）の主な進捗状況

2020年1月24日現在

1. 国内の開発品状況

<申請中開発品>

製品名／開発コード ／一般名	区分	予定効能／薬理作用	剤型	自社 <sup>*</sup> ／導入
ONO-2370 /オピカボン	新有効成分	パーキンソン病 ／長時間作用型COMT阻害作用	錠	導入 (ビアル社)
オレンシア点滴静注用 オレンシア皮下注 /アバタセプト	効能追加	関節リウマチにおける関節の構造的 損傷防止／T細胞活性化抑制作用	注射	導入 (ブリistol・マイヤ ーズ スクイブ社)
オノアクト点滴静注用 /ランジオロール塩酸塩	効能追加	敗血症に伴う頻脈性不整脈 ／β <sub>1</sub> 遮断作用（短時間作用型）	注射	自社
ONO-5704 <sup>*7</sup> /SI-613	新有効成分	変形性関節症 ／NSAID結合ヒアルロン酸	注射	導入 (生化学工業株式会社)

2020年3月期第2四半期決算発表からの変更点

※7：NSAID結合ヒアルロン酸「ONO-5704/SI-613」について、「変形性関節症（膝関節、股関節、足関節）」を効能・効果とした承認申請を行いました。

\*）：共同研究により創出された化合物を含む

<臨床試験中開発品>

製品名／開発コード ／一般名	区分	予定効能／薬理作用	剤型	フェーズ	自社 <sup>*</sup> ／導入
オレンシア皮下注 /アバタセプト	効能追加	未治療の関節リウマチ ／T細胞活性化抑制作用	注射	Ⅲ	導入 (ブリistol・マイヤ ーズ スクイブ社)
	効能追加	一次性シェーグレン症候群 ／同上	注射	Ⅲ	導入 (ブリistol・マイヤ ーズ スクイブ社)
	効能追加	多発性筋炎・皮膚筋炎 ／同上	注射	Ⅲ	導入 (ブリistol・マイヤ ーズ スクイブ社)
オノアクト点滴静注用 /ランジオロール塩酸塩	小児での 効能追加	心機能低下例における頻脈性不整脈 ／β <sub>1</sub> 遮断作用（短時間作用型）	注射	Ⅱ/Ⅲ	自社
ONO-5704 /SI-613	新有効成分	腱・靭帯付着部症 ／NSAID結合ヒアルロン酸	注射	Ⅱ	導入 (生化学工業株式会社)
ONO-4059 /チラブルチニブ	新有効成分	天疱瘡／Bruton's tyrosine kinase (Btk) 阻害作用	錠	Ⅱ	自社
ONO-7269	新有効成分	脳梗塞／FXIa阻害作用	注射	Ⅰ	自社
ONO-4685	新有効成分	自己免疫疾患 ／PD-1×CD3二重特異性抗体	注射	Ⅰ	自社

\*）：共同研究により創出された化合物を含む

## 2. 海外の開発品状況

## &lt;臨床試験中開発品&gt;

製品名／開発コード ／一般名	区分	予定効能／薬理作用	剤型	フェーズ	地域	自社 <sup>*</sup> ／導入
ONO-4059 /チラブルチニブ	新有効成分	シェーグレン症候群 ／ Bruton's tyrosine kinase (Btk) 阻害作用	錠	II	欧米	自社 (ギリアド・サイエンス ズ社に導出)
ONO-7684	新有効成分	血栓症／FXIa阻害作用	錠	I	欧州	自社
ONO-2808 <sup>**</sup>	新有効成分	神経変性疾患 ／S1P5受容体作動作用	錠	I	欧州	自社

2020年3月期第2四半期決算発表からの変更点

※8：S1P5受容体作動薬「ONO-2808」は、健康成人を対象としたフェーズI試験を開始しました。

※成長ホルモン分泌抑制薬「ONO-5788」は先端巨大症を対象としたフェーズI試験を実施していましたが、戦略上の理由により中止しました。

**\***）：共同研究により創出された化合物を含む